

## ブースター

2023.3.2

この前、初めてバスケットボールのプロリーグの試合を見た。知り合いに誘っていただいたのである。私と家人にとっては、久しぶりのワクワク感である。何事も初めてというのはドキドキ感が伴う。いろいろなことが心配になってくる。上履きは必要なのか。昼食はどうするのか。何か応援グッズは必要なのか。

よくよく考えてみた。プロスポーツというものをどのくらい見たことがあるだろうか。野球はある。若いときから見てきた。東京ドームはいいが、甲子園球場はすごかった。楽天スタジアムも楽しめる。

他には、サッカーである。日本よりもイタリアで見た試合の方が多い。あとは思いつかない。意外と見ていない。テレビで見ているのがほとんどである。やはり、会場に足を運んで目の前で見るのは違う。会場の雰囲気、迫力などが直に伝わる。そして、何といてもプロ選手の技術の高さである。これは、野球にもサッカーにもバスケットボールにも通じることである。

野球やサッカーなど、いつも芸術品だと思う。野球における、あの無駄のない動き、並外れたパワーとスピードは、一級品である。サッカーでは、足を使って自由自在にボールを扱う。パスが次から次へとつながるときなど、まるで機械が動いているかのようである。スポーツはある一定のレベルに達すると、美しくなる。芸術の領域に達する。

知り合いの手ほどきを受けながらバスケットボールの会場に入る。昼食や飲み物、グッズを購入できるお店が並ぶ。これは、野球やサッカーなどと同じである。まずは、会場に入り、座席を確認する。知り合いは、携帯用の座布団を我が家の分まで持ってきてくれた。ありがたい。

問題は、応援の服装やグッズである。これも知り合いが私の分まで持ってきてくれた。それを借り、見事なファイヤーボンズにわかファンとなった。家人は、前の晩に何か物色していた。当日の朝になりわかった。ファイヤーボンズのチームカラーである紫のアイテムを探していたのである。

私が恐れていたのは、応援席が紫一色になり、自分だけが取り残されるという事態だった。だが、そんなことは起きなかった。たった1試合を見ただけで判断はできないが、まだまだバスケットボールの応援団であるブースターは育ってはいないのではないかと。野球の応援やサッカーの応援はすでに確立されている。伝統もある。それに比べると、バスケットボールは、協会や関係団体がブースターを育成中のように感じた。ブースター自身が盛り上げているのではなくて、盛り上げている側にブースターがついていくという構図である。これは、B2リーグであり、しかもホームの郡山ではなく福島開催ということもあったかもしれない。

試合は、ゲーム終了が近づき、ボンズが1点差まで迫ったが、追いつけずに惜敗した。それでも十分に楽しめた。座席は、野球やサッカーに比べると、かなりコートや選手に近い。それもよかった。コーヒーが欲しくなり、探していると、我が家がお気に入りの磐梯熱海のコーヒー店が出店していた。これもうれしかった。

一度行ってみると、その競技特有の応援における流儀や会場の雰囲気がわかる。会場での段取りがわかることが重要である。また知り合いに連れていってもらい、慣れてきたら自立しようと思う。その頃には、にわかブースターから初級ブースターぐらいにはなっているかもしれない。